

～2007年9月から2008年8月に脳血管カテーテル検査を受けられた患者さんへ～

## 脳血管カテーテル検査とMRA、超音波検査（経頭蓋超音波検査：TCDを用いた脳血管の評価に関する研究に関するデータ使用のお願い

平成22年9月2日  
川崎医科大学附属病院  
脳卒中科 坂本悠記

脳の血管を評価する方法には、MRA検査、超音波検査（TCDなど）、CT検査や脳血管カテーテル検査などがあります。私たちは診療の中でこれらを必要に応じて使い分けています。それぞれ利点と欠点があり、例えば、前の2つは造影剤を必要としますが、残りの2つは造影が必要です。

今までの報告では、血管が曲がっている部位（“サイフォン部”と呼ばれる“眼の奥に位置する部位”がその代表です）の正確な評価は、前者の2つは不十分であり、造影剤を用いた後者2つが必要であると考えられていました。しかし、私どもは診療を行っていく中でMRA検査とTCD検査の2つの結果を組み合わせると、サイフォン部が“細かいかどうか”に関しては（全ての評価ではありません）、脳血管カテーテル検査と同じような結果が得られると考えるようになりました。そして、それを科学的に証明するために皆さまの診療データを用いた臨床研究をさせて頂きました。

具体的には2007年9月から2008年8月までに脳卒中科に入院し脳血管カテーテル検査を受けた患者さんを対象に、カテーテル検査でのサイフォン部の評価を入院中に診療の一環として受けたMRA検査とTCD検査の結果と比較検討しました。結果は私どもの考えの通りMRA検査とTCD検査は合わせると“サイフォン部が細かいかどうか”の診断精度が造影剤を用いた検査と同等に上がるというものでした。

我々はこの結果を脳卒中診療の向上のために論文として、医学雑誌に投稿させて頂くことにしました。つきましては、診療で得られた皆様方のデータを研究に使用することにご了解とご協力を賜りたく存じ上げます。個人名や個人が特定されるデータが公表されることは一切ありません。

この研究に関して、ご質問のある方は下記までご連絡ください。ただし、いちど論文が発表されてしまうと、データの削除などは不可能になります。大変申し訳ありませんが、データ削除のご依頼に関しては2010年11月末日までにご連絡をお願い致します。

担当 坂本悠記（川崎医科大学 脳卒中科）  
電話： 086-462-1111（代）  
Fax： 086-462-1199